

高田短期大学通信



目次

巻頭インタビュー	P2-P3
子ども学科、育児文化研究センター、委託訓練生インタビュー	P4-P5
オフィスワークコース、キャリア研究センター	P6-P7
介護福祉コース、介護福祉研究センター、外国人留学生支援室	P8-P9
仏教教育研究センター、仏教行事委員会、研究余滴	P10
キャリア支援センター、ボランティア活動支援室、 保健室・学生相談室・カウンセリング室	P11
学生自治会、部活動、図書館公開講座	P12
卒業式・入学式、新入生研修、入試広報活動、学習環境の改善、同窓会	P13
着任のみなさん	P14
人生余滴、人事、公告	P15
就職状況一覧	P16

— 福西朋子先生と清水谷正尊先生のお二人に、子ども学科を中心に高田短期大学(以下高短)の魅力や高短の建学の精神についてお話しいただきました。



福西先生と子ども学科

— 福西先生と子ども学科とのつながりのきっかけは？



福西 たまたま高校時代の音楽の恩師と短大に居られた音楽の先生が知り合いで、高短で音楽の教員を一人探しているということで、お声がけいただきました。大学では、教育学部で中学校の音楽教員養成課程で学んでいたの、幼児教育は畑違い。ただ、高短ではピアノのレッスンが主になるということでした。私は、大学・大学院を通じて、音楽と向きあっており、特技を生かせるのであればということでお引き受けしました。

高短に就職後、結婚して子どもが生まれたのですが、自分の子育てのいろんな経験が、短大での教育内容を深めていくのにも役だったりして、幼児教育がだんだん面白くなって今日まで来ました。

学長の子ども学科についての印象

— 学長になられて1年、子ども学科についての印象、ご感想はありますか？

学長 学長になる前からキャリア育成学科で仏教を教えています、10年ほど前までは子ども学科で教えていました。その頃の印象ですが、子ども学科の学生さんたちは、子どもを相手にするだけに、活発で、元気があって、情緒が豊かな印象がありますね。



学長になってからは、学生さんよりも先生方と接する機会の方が多いのですが、子ども学科の先生方は、ほ

んとに学生さんに対して親身になってくれる先生が多いように思います。もちろんキャリア育成学科も同様で、これこそが高短の大きな魅力だと思います。

子ども学科で学生さん達に学んでほしいこと

— 福西先生は子ども学科ではどのような所に重点を置かれていますでしょうか？

福西 今は昔とは違いタブレットやスマホから、ありとあらゆる情報を得ることができ視野は広がりました。子どもたちを含め、私たちにはたくさんの情報が「入力」されています。けれども「入力」したものを活かして自分の考えや行動として「出力」する、自分の身体を使って外に出す、ということもとても大事だと考えています。何より、スマホ等の狭い画面から感じとるものはとても限定されているようにも思います。このような現代だからこそ、人間の持っている五感をフル稼働して身体を使って活動することを大事にしたいですし、子どもが育つ上でもこのことは欠かせないことです。そこで、子ども学科では五感を豊かにできる環境での活動を重視しています。その環境のひとつとして「たかたんフォレストのびのびひろば」と称した森があります。この森の活用は、以前、本学科に所属されていた河崎道夫先生の発案からでもあり、その先生は「自然の中での活動、遊びの出来る保育者が、これから必ず必ず求められる」と常日頃、仰っていました。本学科で学生さんが経験したことを保育の現場に活かしてもらいたい、子どもたちが五



感をフル稼働させて伸び伸びと遊べることに繋がってほしいと願っています。

ということで、子ども学科で

は、自然保育を体験的に学ぶことができますし、これは、自然が豊かな三重県、そして高短だからこそその特色だと思います。

森の整備は複数の教員で行いましたが私も関わりました。これまでに竹を伐ったり、伐った竹を処分するために竹破砕機を津市からお借りして粉碎する作業も行いました。粉碎した粉は山に撒いたのですが、その場所から、なんとカブトムシの幼虫が大量発生したのには驚きました。

— ピアノを弾く繊細な指で、荒々しい作業？

福西 幼い頃に近くの山で秘密基地をつくったのと同じ感覚で楽しんでいるので山での作業には抵抗感がありません。それに、「高短の森」については、場所を提供していただいている地主さんのご理解や学外の方々からもこれからの活動に期待していただいていますので、子どもや保育のための環境として整備が進めばと思っています。

それと、私が担当する音楽関連でも、豊かな表現のためには、やっぱり五感で感じる必要があります。音楽も自然と深いところにつながっています。自然の中で音を聴く、自然物から音を奏するような活動もゼミや音楽科目で行っています。

建学の精神と子ども学科

— 学長は、福西先生のお話をお聞きになっただのようにお感じになりましたでしょうか？

学長 高短の建学の精神は仏教精神ですが、仏教のお経の中に「赤いものは赤く光り、白いものは白く光る」という言葉があります。それぞれがそれぞれの個性を発揮して光り輝くという意味です。

昔、私の父が言っていたのですが、キリスト教の聖者は皆、優しくな顔に白い髭を生やした似たような顔をしています。仏教のお坊さんは、温かそうな法然さんもいれば、厳しそうな親鸞さん、怖そうな達磨さん、ひねくれた一休さんなど、それぞれ個性的な顔をしています。それは、それぞれの個性が発揮される仏教だからこそだと思います。お釈迦様がおっしゃった「自灯明、法灯明」という言葉にも、そのことがよく現れています。

そして、それぞれが光り輝くということは、自分のことを大事にすると同時に、まわりのみんなのことも認めるということ。みんなちがって、みんないい。それを高短では「やわらか心」と呼んで、教育の理念としています。自分の個性と良さを伸ばし、まわりのみんなのことも認めあい、助け合って、一つのチームとして何かことをなしていくことができるのは、「やわらか心」があってこそだと思います。

高短の先生方は、そういう「やわらか心」を持った社会人になるように教育してくださっています。具体的には、学生さんたちに対して、こうなさい、こうなりなさいと、型にはめていくのではなくて、学生さんそれぞれが自分でやりがいやおもしろさを見つけて、まわりのみんなと一緒に伸びていくような教育をしてくださっていると思います。自分が認められてこそ、まわりを認める心も育まれます。つまり「やわらか心」が育まれます。高短にはそうやって学生が主体的に育つのをサポートしてくれる先生方がたくさんいらっしゃいます。これは、仏教精神に基づいたこの学校の良さだと私は思っています。

福西先生が五感の話をされましたが、「やわらか心」を持つとき、まわりのいろいろな良さに気づき、豊かな五感が育まれるように思います。

高校生の皆さんへのメッセージ

— 高校生へのメッセージ、まずは福西先生から

福西 私がここで保育者の養成に携わる目的は、やっぱり子ども達のためと言うのが一番にあります。子どもが育つには知識や情報の多さ以上に、自分の身体を使って、まずやってみて、そこで考え気づいて、またやってみる、という流れが大切で、その過程で身体も心も育っていくのだと思います。このことを大切に考える保育者を養成するには、学生さんたちにもそのような経験が必要だと考え、今に至っています。子どもの頃を思い出して、子どものように活動するなかでの学びや気づきが、保育の場できっと生きてくると考えていますし、その先に子どもたちの笑顔があればなと思っています。

さて、私はゼミの学生さん達に高短に入学した理由を聞いていますが、さまざまな境遇、辛い立場に置かれている子どもたちの力になりたいから、と言った学生さんもありました。大げさかも知れませんが、高短の子ども学科に入るということは、子ども達の幸せのために働く、生きがいのある職を目指せることだと思います。確かに講義も演習も幅広くあり、大変な面もあるかもしれないけれど、職を得てずっと働き続けると、自分も成長できる機会もたくさんあるので、保育者を目指すのは、とても夢のあることだと思います。高短にはその夢をかなえることを支える先生方も大勢いてくださいますし、「高短の森」のように五感を磨く環境もあります。ぜひとも保育者をめざして高短で私たちと一緒に学びませんか？

高短には、奨学金など、学びを支える様々な制度もあります。また、困ったときに相談出来る学生相談室、つらいときに寄り添ってくれるカウンセリング室・保健室、また就職を支援するキャリア支援センターもあって、学生さん達が安心して過ごせる環境が整っています。

— 学長からもメッセージを

学長 高校生の皆さんに対してですと、子どもが好きだったり、誰かを楽しませるのが好きな人は、高短の子ども学科がお勧めですよ、って思います。子どもたちのかわいい笑顔をたくさん見ることができず、またどうやったら笑顔を見せてくれるのかを考えて行動するのが保育職の仕事だと思うので、人が喜んでくれるのが嬉しいと思う生徒さんは、ぜひ高短にお越しください、と思います。

(聞き手 大野 照文)

子ども学科



たかたん×三重の保育・子育て

「一人の子どもを育てるには、一つの村が必要だ」とはアフリカの諺ですが、子どもは家族のみではなく地域で多くの大人との関わりの中で育てるものだという事です。日本においても「子ども」に関わることは「子ども家庭庁」の新設からも窺えるように国として取り組むべき重要なことと位置づけられています。その渦中において「たかたん」の子ども学科としてできることは何かと問い直していますが、まずは子どもの育ちに大人として関わることの「楽しさとかけがえのなさ」を学生さんが感じる事だと思っています。保育や子育てに対するネガティブな情報が氾濫する現代ですし、実際の保育の場では保育者不足に端を発する課題が多々あることも否めません。しかしながら、子どもたちとのリアルな体験と「子どもとこれをして、このような保育をしたい」と描けるような学びや経験ができる教育や環境を提供することが「たかたん」の担うべきことだと考えます。加えて、三重での保育・子育ての充実には寄与できる保育者輩出を地域の皆さまと繋がりながらこれからも行っていきたく思います。

新しい科目が始まります！

令和5年度生カリキュラムに「たかたん保育特別演習」と称し、自然保育、子育て支援、保育教材をテーマに3つの科目を新設、今年度後期開講です。

「自然保育」は、大学周辺の自然環境をフィールドとして実施します。自然のなかでの子どもの育ちは三重県でもその意義が着目され、「自然保育の推進」に向けた取り組みが保育や子育ての場でも多々行われています。本科目では、県内で自然体験や自然保育に関わる方々を講師に迎え「自然体験活動指導者(NEAL資格)」取得を含み、地域の自然保育に活かすことのできる実践的な授業を行っていきます。

「子育て支援」は、学内の「おやこひろば たかたん」におけるリアルな子育て支援活動から学びを得る科目です。ひろば参加の皆さま対象の活動企画・実践と振り返りを積み重ねていきます。親子の皆さまのご協力を得ながら、子育てサポーターとしての理解を深め、実践力を身につけていきます。

「保育教材」は、製作した教材を子どもの発達や保育内容と関連づけてどのように活用するのか、と保育現場で実践できることを一番の目的としています。講師はプロの絵本・あそび作家の浦中浩一先生で本学卒業生でもあります。保育の場での表現活動講師も数多く、その経験に裏打ちされた授業は後輩に強く響くことでしょう。

ファミリーデー@ゼミナール活動



育文センター主催のファミリーデー(R5.12)に3つのゼミが、親子で身体を動かしたり製作したりする活動や日常では体験できないあそびの企画・実践にチャレンジしました。当日は頭で考えただけでは思う通りにいかないことばかり、「臨機応変」に動くこと必須の場でした。多々反省点はありましたが、たくさん笑顔を親子の皆さまにいただきました。このような経験ができる機会をこれからも創出していきます。

(子ども学科長 福西 朋子)

地域の親子の皆さまと音あそび

～木の音ってすてきだね！楽器作りと演奏会～

三重県産木材を用いた打楽器を製作し、学生やプロの音楽家と一緒に音遊びや演奏を楽しむイベントを行っています。ゆめ基金からの助成や県内の木工職人の方々に協力を得て、これまで、ヒノキ材によるクラベス(R4・夏)やカスタンネット(R6・春)、スギ材によるカホン(R4・秋/R5・秋)を作ってまいりました。幼児には少し難しいと思われる釘打ちやカンナ削りも保護者の助けのもと少しずつ手馴れていく様子が見られ、お子様の木工デビューの機会としても喜ばれています。製作後の音遊びや音楽家による特別レッスン、さらにはステージや森の広場で行う演奏会は格別で、地元の木材ならではの温かみのある音が一齐に鳴り響く瞬間にはいつも心が震えます。大学を核とした子どもの自然体験、文化や技術の伝承、地域の絆づくりを促す取り組みとして、今後も継続的な実施に努めてまいります。



(子ども学科教授 山本 敦子)

🍷 育児文化研究センター

● おやこひろばたかたん

本センターでは、地域子育て支援事業として、学内で「おやこひろばたかたん」を開催しています。

「おやこひろばたかたん」の目玉の一つは学生がいつでも参加できる環境にあることです。ボランティアとして単発で入ることもありますし、自分たちで企画から実践まで継続的に参加することもあります。後期からはたかたん保育特別演習「子育て支援」の授業も始まります。学生が参加することで、ひろばには活気と明るさが溢れることを、学生には保育現場で



の実践力に繋がることを期待しています。

「おやこひろばたかたん」のもう一つの目玉は、ひろばにかかわるスタッフや教職員が専門的な視点を持っているという点です。

中でも、月に1回ある子育て講座では担当者の専門分野を活かした遊びや講話を計画していますので、楽しく参加しながら子育てのことを相談する機会にもなります。

これからも地域の親子に「おやこひろばたかたんに来てよかった」と思ってもらえるような場にしていきたいです。

(育児文化研究センター長 青木 信子)



委託訓練生の学生さんにインタビュー



子ども学科2年生
加藤 茉利奈 さん
寺澤 華菜妃 さん
河野 亜弓 さん
(左から)

本学では委託訓練生として社会人経験のある学生さんも学んでいます。社会人経験を経てどのような学び直しをされているのでしょうか。3人の学生さんにお話をうかがいました。

● 実習をやってみた感想について教えてください

実習では、子どもの発達には個人差があることや子どもの意欲を引き出すにはどう関わればいいのか日々試行錯誤の中で保育が行われていることを学び、保育の難しさややりがいを感じました。(河野さん)

● 好きな授業は何ですか？

私の好きな授業は「造形表現技術」です。大学ではフェルトで布絵本などを製作し、子どもの発達段階に合わせてそれぞれが楽しめる保育教材について学びを深められています。(寺澤さん)

● 高田短大の生活について

先生方や現役生と初めはどのような関わりをしていったらいいのか不安な部分もありましたが、先生方は温かい雰囲気ですサポートしてくださっており、現役生や訓練生同期とも仲良く楽しく充実した日々を過ごさせて頂いています。(加藤さん)

休み時間は3人で過ごすことも多いそうです。お話を聞かせていただき、専門分野の知識と技術を共に楽しく学んでいる様子が伝わってきました。

※委託訓練とは、一定の条件を満たす方が三重県の指定する機関で勉強し国家資格を取得し正社員での就職を目指す制度です。

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ

あこがれの保育者

子ども学科 令和5年度卒 山田 ゆい

①四日市市立日永中央保育園 ②毎日元気いっぱいの子もたちと関われること。日々大変だと感じることはありますが、子どもの成長を近くで見守れることにやりがいを感じています。子どもたちの明るい笑顔は、私まで笑顔いっぱいしてくれます。③子どもたち一人ひとりに寄り添い、のびのび安心して過ごせる環境作りをしていきたいです。そのために、他の先生や保護者の方とのコミュニケーションを大切に、子どものできた！を喜び合える関係を築いていきます。④保育者としての専門的な知識、技術を培うための場所です。実践的な授業や実習での経験が活かしていることが多くあります。⑤高短で過ごす2年間はあっという間だと思います。楽しいこと、辛いことそれら全てが自分にとってより良い経験となります。今できることに、どんどんチャレンジしていきましょう。



在学生の声

実習を通して学んだこと

子ども学科2年 渡辺 佳鈴

高短に入学して一年が経ち、講義や実習を通してたくさんの力を身に付けることができました。初めての实習では子どもたちと楽しく関われることができるのかな、部分実習はうまくいくのかな、など不安な気持ちでいっぱいでした。しかしいざ現場に立ってみると、子どもたちはとってもかわいくて楽しく関われることができました。それと同時に子どもたち同士のトラブルがあった時の対応の仕方や子どもたちが持っている力を存分に生かすことができる環境づくり、声かけなどたくさんのことを学ぶことができました。そして子どもたちは自然の中で育まれる力がありその力を信じて関われることが大切なのだと思ふことができました。実習を通して学んだことをこれからの実習や保育現場でも活かしていきたいです。



キャリア育成学科 オフィスワークコース



新語に関する調査結果をまとめました(野呂ゼミ)

野呂ゼミナールは、普段意識せず使っている言葉や私たちのコミュニケーションをテーマに、自分自身で問題点を発見し解決していく姿勢を身につけることを目的としています。昨年度は、辞書に載っていない新しい言葉や用法について分析・考察した結果を報告書にまとめました。グループごとに、対象とする新語を4つずつ選び、その語が実際に用いられている用例を収集した後、既存の語との共通点や相違点を考えながら、新語の意味を記述しました。さらに、学科の1年生全員にアンケートをとり、その語がどの程度使用されているか等を調査しました。ゼミナールのメンバーは、完成した報告書を手にして達成感や充実感を感じています。今後、就職活動での自己PR等で活用することが期待されます。



(オフィスワークコース教授 野呂 健一)

鈴鹿市白子公民館共催事業 パソコン教室 in 高田短期大学

川喜田ゼミでは、地域貢献として、鈴鹿市白子公民館との共催事業「パソコン教室in高田短期大学」を実施しました。講座内での受講生へのサポートだけでなく、スクールバスで白子公民館へのお出迎えも行い、目上の方への「丁寧な接客スキルの実践」を活動のねらいとしています。今回は「PowerPointでかんたん動画作成 電子紙芝居を作成してみよう!」と題し、パソコンにカメラとマイクを接続し、ナレーション入りスライド作成のマンツーマンサポートを行いました。この活動を通し、学生達自身も参加者の皆様から学び、成長できる機会になったと思います。令和6年度は新たなテーマとニーズに向けたパソコン教室を実施します。学生達も胸を膨らませながら次のステップに向かっていきます。



(オフィスワークコース准教授 川喜田 多佳子)

湯元榊原館(チームプロジェクト演習Ⅰ)

「チームプロジェクト演習Ⅰ」での令和5年度の取り組みは、本学と連携協定を結ぶ湯元榊原館と榊原温泉地域を対象にPBLを実践しました。学生がSTPやSWOT分析を試みたところ、個々の観光資源は国内にある同種の観光資源と比べて稀少性を有しているものの、その稀少性から得られる経験価値が十分に訴求されていないと仮説を立てました。そこで、榊原温泉地域の経験価値を間近で確かめるべく、12月17日(日)に湯元榊原館へ訪問し、代表取締役社長・前田諭人様から地域住民や事業者、来訪者の実態を聞き取りました。前田様の見解を参考に、継続履修科目の「チームプロジェクト演習Ⅱ」で若者に訴求すべき榊原温泉地域の経験価値を考察していきます。



(オフィスワークコース助教 伊東 秀幸)

津ビジネスアイデアコンテスト(伊東ゼミ)

3月18日(月)、津商工会議所設立130周年記念事業「TSU BUSINESS IDEA CONTEST」が開催され、1次審査を通過した7チームが最終審査に挑みました。本学からキャリア育成学科オフィスワークコース・伊東ゼミ1年も出場し、全体の2番目にあたる「優秀賞」を受賞しました。伊東ゼミ1年は、「健康を取り戻せるか?!榊原温泉で湯快津っ買いスイーツバイキング」と題して観光振興を考察し、湯屋を彷彿とさせる衣装から榊原温泉に対する想いを伝えるとともに、マーケティングのフレームワークを駆使した論理的なビジネスアイデアを制限時間の7分間で披露しました。これからビジネスアイデアの実現に向けて始動し、津市の観光振興に貢献していきます。



(オフィスワークコース助教 伊東 秀幸)

🔗 キャリア研究センター

● 一身田寺内町PRポスターを作成しました

キャリア研究センターでは津市、一身田商工振興会と連携して、一身田地域の活性化に係る取り組みを継続的に進めています。

オフィスワークコース中畑ゼミ2年生が一身田寺内町とのお店を訪問し、こういうことアピールできるのになど気付いた課題を基に、ポスター案を作成しました。

ポスター案の報告会を一身田商工振興会、津市など関係の方々を招き、6月30日(金)に本学で開催しました。参加者からの意見や提案を受けてポスターのブラッシュアップを行い、商品PRやカフェの紹介などのポスターを作成しました。

作成したポスターは各お店や一身田寺内町の館などで掲示され、寺内町まつりのPRポスターは一身田地区の掲示板に掲示されました。



● パソコン&スマートフォン教室を開催しました

津市中央公民館との共催事業として、パソコン&スマートフォン教室「もっと便利に！インターネット活用術」を「情報ボランティアみえ」と協力して、9月2日(土)と1月20日(土)の2回開催しました。

内容は、情報検索の基礎、マップ検索とストリートビュー、画像検索(Googleレンズ)で、Google検索を使いこなすとともにスマホでの検索の活用も行いました。最後にスタッフと受講者がグループとなり、情報検索問

題に取り組みました。会話を弾ませながら学生と受講者が問題に取り組む様子は、とても素晴らしいものでした。



セミナーの様子

また、コロナ禍のため中止していたパソコン指導ボランティア養成講座を、「パソコン・スマホ教室サポーター養成講座」として再開しました。サポーター実践として、2回目のパソコン&スマートフォン教室で6名の受講者がスタッフとして活躍され、修了証が中央公民館担当者より手渡されました。

● キャリア研究センターの廃止について

キャリア研究センターは平成26年6月に発足し、行政・地域企業等との連携事業や、卒業生・企業の方々に向けた各種セミナーを行うとともに、研究会・学習会の開催や紀要の発刊等を行ってきました。

これらの活動により地域との連携構築、地域への貢献活動の柱立てを行うことができたと考えます。

しかし、令和5年度からのカリキュラム改訂にとまない、オフィスワークコースの授業や活動と重なる部分が多くなりました。

このため、キャリア研究センターは一定の役割を終えたものとし、令和6年3月末をもって廃止することといたしました。この間ご支援、ご参画いただいた連携機関、地域の皆様へ御礼申し上げます。

なお、キャリア研究センターで行ってきた連携事業やセミナーはキャリア育成学科オフィスワークコースが引継ぎ、実施して参ります。

(元キャリア育成学科教授・元キャリア研究センター長
中畑 裕之)

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ



入社1か月の感想

キャリア育成学科 オフィスワークコース 令和5年度卒 尾崎 彩花

①パイロットインキ株式会社 ②仕事をしながらスキルアップを実感することが出来る点です。会社に影響のあるニュースを見たり、研修の中で発表をする機会が多く発表スキルを学べたりします。自分の成長を短期間で感じられる点がうれしく思います。辛い点は初めての現場で緊張感を感じるところです。自分のペースを見つけることが大切だと思いました。③私は、自分の社会人としてのレベルアップを続けながら、会社の役職をいただける人になりたいと考えています。④生徒に対してのサポートが手厚いです。就職する際は特に、どの先生も気にかけてくれて企業選択の幅が広がり私はとても感謝しています。⑤学生のうちしかできないことはたくさんあり社会人になると仕事のことを考え自由に使える時間が少なくなりそうです。ですので、勉強も遊びも両立し充実した学生生活を送ってください。

在学生の声

1年を振り返って

キャリア育成学科
オフィスワークコース2年 浅井 愛里



高田短期大学に入学して1年が経ちました。今年文化祭や自治会行事など盛りだくさんのイベントが復活し、とても楽しく充実した学校生活を送ることができました。この1年は普段の授業と並行して、検定対策にも集中して取り組み、5種類の資格を取得することができました。その中でも特に簿記検定は、今まで全く学んだことのない分野だったので苦戦しました。放課後に友人と一緒に勉強したこと、授業内の小テストに必死だったことが今では良い思い出になっています。2年生では就職活動に加えて、ボランティア活動も頑張りたいと考えています。

キャリア育成学科 介護福祉コース



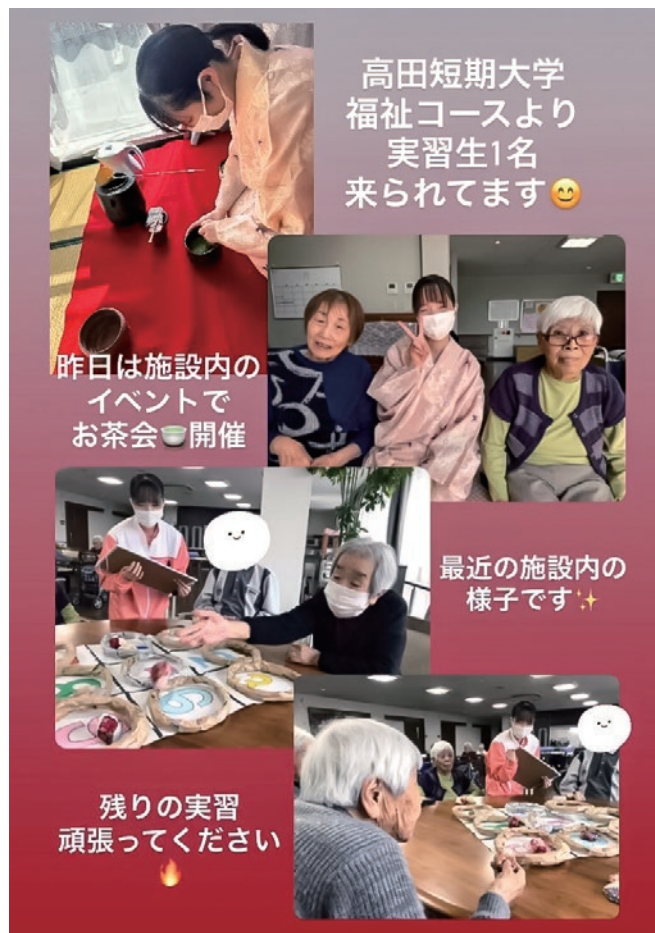
キャリア育成学科介護福祉コースの取り組み

介護福祉コースでは、良好な人間関係を築く力である「ヒューマンスキル」と多様な人々とともに仕事に取り組むことができる「社会人基礎力」を持ち、介護福祉の専門能力を身につけて、地域社会で活躍できる介護福祉士を育成するため、さまざまな取り組みを行っています。令和5年度の取り組みを一部紹介します。

介護実習Ⅱでの学生の実習の様子 ～虹の夢津にて～

令和6年2月～3月、本学1年生が介護実習Ⅱに臨みました。今回が学生にとって2回目の実習で20日間という長い期間、10カ所以上の施設に分かれて実習しました。1年生の小掠さんは特定施設入居者生活介護虹の夢津にて学びました。

介護実習では、介護に関する知識・技術を実際の利用者さんと接しながら学び、生活支援のヒントを先輩職員や利用者さんから伝授していただきます。一緒に季節の行事に参加したりして会話し、自分で企画したレクリエーションを実施して支援者としてのあり方を身につけます。下の写真はお茶会の様子、協力していただいた利用者さんの笑顔が素敵ですね。小掠さんのがんばる様子が感じられます。



施設の広報ページより(施設の方からご提供をいただきました)

福祉用具の展示体験会に参加しました ～三重県身体障害者総合福祉センター～

令和5年11月17日(金)、三重県身体障害者総合福祉センターにて「みえ福祉用具フォーラム2023」が開催され、多くの福祉用具業者が参加した展示体験会が行われ、1年生の学生たちが授業の一環で体験してきました。実際に見て触れて試してみる機会は重要です。「その人に合った福祉用具」が選択できる知識・技術を身につけることが大切でそのきっかけ作りになるイベントでした。学生たちは短い時間を利用してたくさんの福祉用具を見て体験し質問したりしてレポートにまとめ記憶に残しました。



自分たちで企画して 空きコマを利用して実施したクリスマス会

令和5年12月21日(木)ゼミナールの学生たちが高短祭での売上金などを利用して自分たちで企画しクリスマス会を実施しました。写真は中川ゼミの様子です。



(介護福祉コース長 中川 千代)

📍 介護福祉研究センター

● 介護福祉セミナー

介護福祉研究センターでは、昨年11月に矢野加奈子先生をお招きし、「リハビリあそびうたで楽しみましょう♪～支援の必要な子供たちの音楽プログラムを体験しませんか～」というテーマで開催しました。



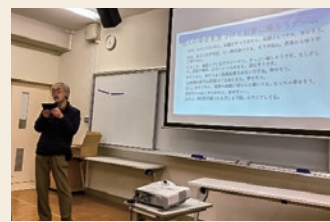
支援が必要な子どもは、普通に文章で話してもわかりづらい、自分に言われていることに気づかない、何度言っても習得しにくい等の特徴があります。リズムやメロディに合わせて、擬音語・擬態語・擬声語等(ガチャ・キラキラ・ザーザー等)を用いることで、言語力、協調性を楽しみながら育んでいけるとお話をいただきました。これら擬音語・擬態語・擬声語を「オノマトペ」といいます。参加者が、「オノマトペ」を用いて、実際の場面で、どのような言葉をかけたらよいか体験するとともに、歌やゲーム等の音楽プログラムを楽しく学びました。

● 定例研究会

令和5年度は、3回定例研究会が行われました。話題提

供者に卒業生を迎える回も多くなり、認知症や障害のある方との介護実践報告は心に響きました。利用者の行動を問題行動として捉えるのではなく、「何を伝えたいのか、どのような人なのかを理解したい」という気持ちのこもった発表に、卒業生の成長した姿を感じる嬉しい時間となりました。研究センターの大事な役割の一つである「リカレント教育の場」として、定例研究会が確立していることに、この10年の継続の力を改めて感じています。

今年2月の第54回定例研究会では、山本啓介研究員から「価値の実現と幸福についての考察」をテーマにお話いただきました。先人らの幸福観や「幸せ」に関する映画のタイトルや商品のキャッチコピー等を具体的に挙げながら、人々は幸せを願っており、世の中には「幸せ」が溢れていることを確認したうえで、幸せとは個人の主観であると報告されました。発表の最後は、昨今の「戦争」に思いをさせ、価値観を統一する必要はない、必要なのは尊重し合うことだと熱いメッセージをいただきました。



(介護福祉研究センター長 上山 由紀子)

🌐 外国人留学生支援室

● 外国人留学生支援室の紹介

令和6年度の本学の外国人留学生は2年生が6名(ネパール人5名、ミャンマー人1名)、1年生は10名(ネパール人9名、スリランカ人1名)です。介護福祉コース14名、オフィスワークコース2名となっています。

外国人留学生支援室では留学生の日本語学習サポートや、授業での日本語補助等の学びへの支援、施設奨学金の紹介等を行っています。

(外国人留学生支援室長 大橋 一喜)



卒業を喜ぶ留学生の皆さん

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ

介護福祉士になって

キャリア育成学科 介護福祉コース 令和5年度卒 相馬 衣織

①介護老人保健施設やまゆりの里 ②研修や職場で先輩職員、他職種の方々が基礎や施設での介助方法や不安に思うことへの質問等に対して丁寧に教えて頂いて日々の学びがあり、働きやすい職場です。また、人の命を預かる仕事のため覚える事も多く、知識・技術・責任感等が必要です。さらに、自分1人でも多くの利用者様の介護をする必要もあり、迅速な対応を求められますが、利用者様への思いやりを忘れず日々の介護を頑張っています。③利用者様に楽しい生活を送っていただくために、手早くとも丁寧な介護をし、利用者様の笑顔を引き出せる介護福祉士になりたいです。④高田短大は介護の知識・技術だけでなく、友人同士で空き時間での勉強や先生方との距離も近く、相談しやすい学びにつながる環境です。⑤高田短大での2年間はすぐに過ぎます。後悔しないように2年間を過ごしてください。



在学生の声

1年で学んだこと

キャリア育成学科

介護福祉コース2年 平山 翼

高田短期大学に入学して1年が経ちました。座学や演習などを通して介護に関する基礎的な知識や技術をこの1年で身につけることができました。また、介護実習で実際に通所介護や特別養護老人ホームに行き、学習することにより認知症のある方とのコミュニケーションや食事介助、拘縮がある人の移乗介助、おむつ交換など普段学校では体験できないことを学ぶことができました。

2年生になり、就職活動や介護福祉士の国家試験対策が本格的に始まります。どちらも両立のできるようにしていきたいです。また学生生活も残り半分となったので悔いの残らないように、友達と楽しく過ごしていきたいと思っています。



仏教教育研究センター

昔、読んだ書物の中に、次のような会話がありました。

「あなたは何ですか？」

「人間です」

「人間とは何ですか？」

「考えてみます」

「考えてわかることですか？」

「人間」という言葉には、どのような意味があるのでしょうか。「人間性」、「人間味」、「人間らしさ」などの派生語があり、「人で無し」とか「あなたには人の心がある!？」という厳しい使い方もあります。人間が人間であるためには、何が必要なのでしょうか。

また、先ほどの会話と同様に、

「あなたがいる高田短期大学とは、どのような学校ですか」と問われた場合、どう答えたらいいのでしょうか。同じ学科の他の短期大学とは違って、高田短期大学が高田短期大学である独自性は何でしょうか。それは、人が人の心を持って人であるように、建学の精神、建学の心があってこそ高田短期大学であります。

その建学の精神とは、本誌の『本山参詣と仏教行事』でも述べましたが、親鸞聖人が明かされた仏教精神によって「ほんとうの人間になっていく」ことであります。

仏教教育研究センターは、学内にある他のセンターと同様に「地域連携施設」であります。

その主な活動内容は、本学の建学の精神である仏教の学びが、学内だけに留まらず、学外の地域の方々にも広がることを願って、様々な講座が開かれています。年齢は問いませんので、学生の皆さんも参加できます。

本学のホームページに当センターの活動内容、講座内容が紹介されています。「基礎講座」は八月の五日間、1限目から5限目まで五講座を学び、「専門講座」は二年間かけて十講座を学びます。「公開講座」は、前期と後期に一回ずつ開催されます。仏教教育は生涯学習です。センターの講座に来られる方は熱心ですし、輝いておられます。

(センター長 松山 智道)



本山参詣と年四回の仏教行事について

高田短期大学では、例年、午前中に入学式を終えた学生が、午後からは高田派本山専修寺へ移動して、合同参拝を行っています。本学では年四回の仏教行事を通して建学の精神を身につけていますが、本山参詣はその精神発祥の地を訪れるものです。

今年も、同行した教職員も含め、全員が宗祖親鸞聖人の木像が安置されている御影堂に入り、本学の清水谷正尊学長から、本山の歴史、御影堂と如来堂(阿弥陀如来の立像が安置されたお堂)の説明がありました。親鸞聖人は阿弥陀如来さまの智慧と慈悲のすばらしさを教えてくださった方であり、この二つの大きな御堂の建立と維持は、その阿弥陀如来さまと親鸞聖人のお心を護り伝えようとされた先人の多大なるご苦勞の歴史の象徴なのです。新入生も御堂に座して手を合わせ、在学中の仏教行事で唱和するお勤めと仏教讃歌の練習をして、本学の建学の精神(親鸞聖人が明かされた仏教精神)を身に付けるスタートとなりました。

本学の建学の精神は、平易な言葉で言えば仏教精神に基づいて「ほんとうの人間になる」ということです。学生も教職員も、建学の精神のもとで、ほんとうの人間へと成長していくのです。つまり、仏教で説かれている慈悲(ぬくもり)と智慧(明るさ)を学ぶことで、相手を思いやる優しい人となり、生きる意味や人の尊さなどが分かる賢い人になっていくのです。



本学では、年四回の仏教行事があり、代表学生による華籠献華・献灯・献華・献香や、学生と教職員の代表による焼香、さらに全員による仏教讃歌と勤行、そしてその厳粛な雰囲気の中で建学の精神に

つながる講話をお聴きして終了します。建学の精神が自然と身に染みこむ貴重な時間と空間、それが仏教行事であります。(仏教行事委員長 松山 智道)

研究余滴

共同研究成果物の発刊

本学の仏教教育研究センターでは、昨年3月、およそ25年の年月をかけ、のべ15名の研究員が心血を注ぎ、やっと発刊するにいたったのが『影印 翻刻 現代語訳 顕正流義鈔』である。

今から五百年ほど前、真宗高田派の第十世である真慧上人は、『顕影流儀鈔』と名付けた書物を著された。書名の通り、親鸞聖人の教えが正しく伝わることを願われて、その教えの肝心が述べられ、教えの伝承、お念仏の伝



統、まさにここにありと叫ばれているのである。

真慧上人のその功績を、真宗高田派のみならず、現代の世に広く伝えるべく、『顕正流義鈔』の研究が続けられてきたのであった。

詩人高田敏子さんの「水のこころ」という詩に、

「水は つかめません 水は すくうのです 指をひいたりつけて そおっと 大切に—— 水はつかめません 水は つつむのです 二つの手の中に そおっと 大切に—— 水のこころ も 人のこころ も」

とあった。研究員は当然、真慧上人の心を大切にしていたが、長きにわたった共同研究では、研究員同士が互いの心を尊重していたように思われる。

(子ども学科特任講師・仏教教育研究センター研究員 松山 智道)

キャリア支援センター

な・か・ま

社会における仲間づくりの大切さ

社会の中で、ひとは一人ではより良く生きていくことはできません。仲間と群れない「孤高」の時間は貴重ですが、「孤立」は辛いものです。だからこそ、他人と関わることで生じる摩擦を乗り越えながら、仲間づくりを進めていくのです。仕事で良好な仲間づくりができれば、1+1が2以上の力を発揮しますが、仲間づくりができていないと、1+1が1以下のパフォーマンスしか発揮できないことすらあります。

就職活動における仲間づくりの大切さ

就職活動においても、仲間づくりが大切です。希望のところに就職できるよう試験対策をされていて挫けそうに

なっても、仲間がいれば頑張れます。たとえ同じところを目指していても、競争相手は外にもいます。身内で牽制し合っても良い結果は生まれません。最近多く取り入れられている集団討論(GD)では、まさに仲間づくりができるかどうかを見られています。キャリア支援センターが実施する公務員試験対策では、仲間づくりを意識して、集団討論はもとより集団面接、実技対策でもお互いを見て評価し合う活動を取り入れています。そうしてできた仲間同士、先に合格を手にした学生が合格後も仲間の試験対策に協力する姿が見られました。就職してから辛いことがあっても、そんな仲間ならきっと相談相手になってくれるでしょう。



(キャリア支援センター長 眞崎 俊明)

ボランティア活動支援室

今年度4月から、ボランティア活動支援室は、2号館3階へと移動しました。開室時間は変わらず、平日8時半から16時半までです。学外のボランティア活動に関する情報の収集や情報提供や活動前の事前指導などのサポートを行っています。ボランティア募集は、昨年度までと同様、キャリア支援センター横に掲示してありますので、興味のある活動があったら、3階ボランティア活動支援室へ来てください。

本学の教育理念である「やわらか心」を実践するために、積極的にボランティアに参加しましょう。

- 問い合わせ先
TEL : 059-253-3205
FAX : 059-253-7001
- Email
takatan-volunteer@takada-jc.ac.jp



(ボランティア活動支援室長 野呂 健一)

保健室 学生相談室 カウンセリング室



保健室より

保健室では、皆さんが心身ともに健康で充実した学生生活を送れるようお手伝いをしています。

学校でケガをしたり体調が悪くなったときには、応急処置を受けたり休養ができます。

健康診断結果に対する保健指導や健康相談も行っています。体調面で心配なことがあれば保健室に相談してください。保健室の場所は、2号館1階、カフェテラス隣です。

(保健室 富永 礼子)

学生相談室より

学生相談室は、皆さんが少しでも気持ちよく、また、自分らしく大学生活を過ごせるよう、一緒に考えたり、話し合ったりできる場所です。今年度から、平日はほぼ毎日、常勤の相談員(心理士)がいます。心配ごとや困りごとの相談だけでなく、心理学に興味があるとか、どんな場所か見てみたいとか、そんなちょっとしたことでも大丈夫です。気軽に立ち

寄ってくださいね。相談員が、学内を回っていることもあるので、その時に声をかけてもらうのもうれしいです。

学生相談室の場所は、2号館1階、キャリア支援センターと保健室の間です。(学生相談室 角谷 愛)

カウンセリング室より

カウンセリング室は皆さんが日常生活で直面する問題や悩みについてお話を伺い、解決や改善に向けて一緒に考えていくところです。カウンセリング室の場所は、2号館2階です。

誰でも人間関係に疲れたり、何かのきっかけで嫌なことを思い出したりすることがあります。そんなことが重なると色々な事に取り組む気力が無くなることもあるかも知れませんね。そしてそこから抜け出したいと考えるのも誰でも同じだと思います。

一人で抱えていてしんどい時、少し話してみてもどうでしょうか。カウンセラーは守秘義務があるので皆さんが話したことは他に漏らすことはありません。また逆に皆さんが望めば適切などころにSOSを発信することもお手伝いします。

人は話すことで、ほんの少し心が楽になります。そのうえで改善策を一緒に探してみてもどうでしょうか。カウンセリング室はすぐ近くに 있습니다。連絡をお待ちしています。

(カウンセリング室 瀬島 美保子)

学生自治会の紹介

令和6年度の学生自治会執行部は子ども学科6名、キャリア育成学科オフィスワークコース6名、介護福祉コース3名というメンバー構成です。今年度は5月にTJC祭、10月に高短祭、さらに1月に

も自治会イベントを開催する予定です。また、抽選会等のイベントを随時企画しています。

高短生の皆さん、一緒にたくさん楽しみましょう。
(学生課)



令和5年度
TJC祭の様子



令和5年度
高短祭の様子



部活動の紹介

数ある部活の中から今回は2つの部活を紹介します。

●3年目のネイチャークラブ

たかたんネイチャークラブが発足して3年目の春となりました。学校生活とサークル活動の両立はなかなか難しいこともあり、思うように活動ができないこともあります。味噌や醤油を作ったり、自家製味噌で豚汁を作ったりして皆さんに振舞ったりすることができました。また、地域の方のご厚意でお借りしている畑で野菜の栽培を始めました。楽しむことはもちろん、さまざまな人とのつながりやかかわりもできていけばと思います。元気いっぱいな新入部員も増え、ますます楽しくなりそうです。



(たかたんネイチャークラブ顧問 中嶋 麻衣)

●音楽しましょ!!

高田短期大学吹奏楽部(たかたん吹部)では毎年10月の高短祭での演奏に加え、保育園・こども園や特養施設などへの訪問演奏等の活動を行っています。

令和5年度には短大と企業の地域活性化協定に基づき、榊原温泉日帰り入浴施設で演奏を行いました。学内では、山本敦子先生(音楽)がプロデュースされた「楽器(カホン)つくりと演奏会」(対象4歳~小2の児童と保護者)に参加させていただき、それぞれの様子は三重TV、ZTVでオンエアされました。活動は部員(学生)による自主活動です。是非、一緒に演奏しましょ!!



(吹奏楽部顧問 増亦 浩一)

図書館公開講座を開催

●令和5年度も図書館主催の公開講座を実施しました

令和5年度も、前年度好評だった高田短期大学附属図書館公開講座「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」(全3講座)を開催しました。21人のかたがたに3講座通しでご出席いただきました。

9月実施【講座1】「石牟礼道子とMINAMATA」では、生まれ育った地で発生した深刻な問題に



終生向き合った作家と、現地に赴き献身的に活動したW.ユージン・スミスら写真家たちを紹介しました。

11月実施【講座2】「平家物語ーかくも愛しき武士(もののふ)たち」では、武士たちの言動について、背景にある各々の事情や人生も踏まえて、考えました。

2月実施【講座3】「遠藤周作ーフランスへの旅」では、信仰の人として知られる作家の、戦後間もない旅程をたどり、旅がもたらしたものについて考えました。

全員参加の座談会では、前年度から受講のかたも、初めて参加のかたも、活発にご発言いただきました。

本講座は令和6年度も引き続き開催することになりました。学生の皆さんの受講も歓迎いたします。

(図書館司書 瀬古 幸弘)

卒業式・入学式について

令和5年度卒業証書・学位記授与式が、3月19日(火)に挙行されました。今年度は来賓・保護者にもご参加いただき、式典を行いました。

子ども学科・キャリア育成学科あわせて236名の卒業生が、慣れ親しんだ学舎をあとにしました。

また令和6年度入学式が、4月3日(水)に挙行されました。

在学生代表による献灯・献華・献香・華籠献華のあと、新入生代表による焼香、三帰依と仏式にて行われ、新入生代表者が誓詞を述べました。

子ども学科・キャリア育成学科あわせて250名が入学し、この日より新たな学生生活のスタートを切りました。(事務局次長・総務課長 藤山 真宣)



令和5年度入試広報活動と今後の活動に向けて

令和5年度の広報活動としては、前年度に引き続き学生広報スタッフによる学生目線でのSNS情報発信に加え、オープンキャンパスを中心としたイベント企画運営、協会進行を務めました。参加した高校生から頂いた声からは、先輩達の姿から短大の様子がよく分かり、本学で学びたい気持ちが強くなった、という声を多くいただくことができました。本学の魅力をしっかり伝えることができた手応えを感じています。

また、高大教育交流活動として、多くの高等学校より本学への見学ツアーにも参加していただきました。育児文化室などの、様々な学内施設の見学や授業見学をして頂いたことにより、充実した設備環境、本学ならではの学びの質を知っていただけるよい機会となりました。

令和6年度の入試広報活動では、高大教育交流を強化することで、より多くの高等学校と共に充実した取り組みを行っていく予定です。在学生の皆さんの協力や行事への参加も頂けると幸いです。

よろしく願いいたします。

(入試広報委員長 川喜田 多佳子)



同窓会の近況

樹心同窓会短大会会長の北端先生が職責を全うされ、令和5年度末で退任されました。平成8年度より28年間に渡り、樹心同窓会短大会を支えていただきました。「高短祭での同窓会バザー」「会員が同窓会を開催するときの補助事業」「短大創立50周年の寄付」等、多くの事業を計画し、推進していただきました。

令和6年度は新しい役員も加わり、役職も一新しました。これまで樹心同窓会短大会が大切にしてきた「笑顔で集う同窓会」が数多く開催されますこと、それを支援できる事業を今後も展開していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。(堀内 由香里)

新入生研修

令和6年度の新入生研修が4月23日(火)に実施されました。各学科・コースで協力して活動し、親睦を深めました。



◀ 子ども学科振付や衣装作りなど、それぞれの得意分野をいかして協力し、創作ダンスを披露しました。発表会は大変盛り上がりしました。

オフィスワークコース▶ ペーパータワーでチームビルディングに取り組みました。チーム全員で高く積み上げる方法を考えて競いました。



◀ 介護福祉コースグループ対抗で、紙コップを積み重ねる「カップdeツリー」ゲームを行いました。スピード勝負のため声援にも力が入り、大盛り上がりとなりました。

学習環境の改善について

●AAAの導入について

昨年度(令和5年4月)より、教務情報をまとめた新システムAAA(Active Academy Advance)の本格運用を開始いたしました。このシステムは、以前から運用していた「学事支援システム」「出席管理システムTKS」「高短キャンパスネット」「キャリアカルテシステム」等を統合するものとして導入いたしました。新システム導入によるセキュリティ向上のほか、各システムを統合しログイン方法を一本化することでアクセシビリティを改善することができました。

学生の皆さんは、「成績」「授業に関する掲示板」「大学からの連絡」「シラバス」「出欠状況」「就活情報」にアクセスするツールとして毎日のように利用いただいています。

(教務課長 高村 幸生)

●施設改修について

令和5年4月～6月にかけて、1号館4階講堂の空調設備を改修しました。講堂内の一部空調機器に不具合があったため、全面的に機器を入れ替えることとなりました。また、9月に2号館2階大講義室および2号館3階視聴覚室の音響設備を入れ替えました。両教室の音響設備の経年劣化による不具合があったため、機器の入替を行いました。

今回の施設改修により、学生の皆さんの学習環境の改善が図られることとなりました。

(事務局次長・総務課長 藤山 真宣)

着任のみなさん



夢の実現にむけてのお手伝い

子ども学科 林 幹士

今年度より、お世話になります。大学教員生活10年目という節目を、高田短期大学で過ごすことになりました。教育原理や保育者論を担当します。学生の夢の実現にむけて、持てる力を発揮したいと考えています。よろしくお願ひいたします。



出身地である三重県で

子ども学科 伊藤 拓也

4月より子ども学科で「発達学習心理学」や「保育の心理学」、「子どもと人間関係」などを担当させていただきますことになりました。保育者養成はもちろんのこと、地域貢献活動にも積極的に取り組みたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



未来に向かって一歩ずつ

子ども学科 尾高 慶彦

本年度より子ども学科に着任いたしました。前職では愛知県の小学校、長野県の短期大学で教員を務めてきました。これまでの子どもとかわる経験や保育者養成の指導経験を基に、学生みなさんの夢や目標が実現できるようサポートしていきます。



学生に寄り添ったサポートを心がけます

キャリア育成学科 杉本 あゆみ

4月よりキャリア育成学科におけるキャリア教育関連科目担当として着任いたしました杉本と申します。本学は、これまで高い就職率を誇っていましたが、引き続き、就職率100%を目指して学生のサポートに全力を尽くします。どうぞ宜しくお願いいたします。

図書館で素敵な本との出会いを

キャリア育成学科 江淵 剛

皆さん、はじめまして。オフィスワークコースで経済、経営関連科目を担当します。経済と聞くと難しいイメージを持たれるかもしれませんが、近頃はとても分かりやすく解説された本も多く出ています。学生時代に多くの本と出会い、経済や社会に対する興味や関心を深めていく欲しいと思います。



自分の得意を専門性に

キャリア育成学科 東海林 藍

4月より介護福祉コースで生活援助技術等を担当させていただくことになりました。学生の皆さんが高田での学びの中で、介護福祉士としての「専門性」の種を見い出せるよう、お手伝いしていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。



皆さんのところに寄り添えるように

学生相談室 角谷 愛

今年度から学生相談室の相談員(心理士)として勤務します。すみやめぐみです。皆さんがほっとできるような場でありたいなと思っています。「誰かに話を聴いてほしいな」とか「ちょっと疲れたな」とか思った時、どうぞ気軽に立ち寄ってくださいね。



皆さんとの出会い！このご縁を大切に！

キャリア支援センター 藤村 泰子

私が今まで人として成長出来たのは、学生時代の出会い、職場での出会い、その他大勢の方々との出会いがあったからです。そして4月から新たに皆さんと出会い、今とてもワクワクしています。このご縁を大切に、皆さんと共に歩んでいきます！



今号の表紙の題字デザインについて

「高田短期大学通信」の題字デザインを2024年4月16日から5月10日まで募集したところ全部で4点の作品応募がありました。どれも力作でよく考えられたデザインで、1点を選ぶのが大変難しかったのですが、最終的に子ども学科1年生の浜辺妃藍さんの作品に決定しました。

応募作品は次のとおりでした。



こちらに
決定しました!



応募してくださった皆さん、ありがとうございました。

(図書委員会)

人生余滴

私のキャリアを振り返って

中畑 裕之 (元キャリア育成学科教授)

この3月末を持って高田短期大学を定年

で退職しました。振り返れば、百五銀行、百五総合研究所、高田短期大学と43年間、指導し導いていただいた方々、温かく見守ってくれた方々に感謝しかありません。

大学卒業時、定年を教員で迎えるとは予想していませんでした。就活では4社受けた内3社落ち、ゼミの先生が心配して大学院に進むかと聞かれたことを思い出します。時を経て経験を積むことで、ようやく高等教育に携わらせてもらえるようになったのかなと思われま

さて就職ですが、地域に貢献したい思いもあり第一志望にしていた百五銀行から内定を得、同行に入社しました。しかし、銀行員の仕事をしたのは4店舗、9年ほどで、その後は経済団体「中部経済連合会」への出向から百五総合研究所(当時は百五経済研究所)と、銀行員とは異なる仕事をしてきました。

きっかけは30歳前後に中小企業診断士などの資格を取得したことようです。誰が見ていたのか、営業成績はパツとしないが変わったのが居るから外に出してみようということだったようです。実は資格に挑戦したのは「そのうちに銀行を辞めてやろう」と思っていたためでしたが、結果は思わ

ぬ方向に進みました。

中部経済連合会での仕事、百五総合研究所での仕事は形が無いところから考え始めるようなことが多く、大変でしたが、今では良い思い出です。

そして縁あって高田短期大学で教員となりました。銀行員、地方シンクタンク、社会人、家庭人の経験がなければ務められなかったと考えます。そして、SNSやYouTube、K-POPなど、それまで避けてきたことを学生から教えてもらったことで私の世界は広がりました。これには感謝です。

キャリアデザインの理論に「計画的偶発性」というものがあります。「キャリア形成の8割は偶然起こる事象が左右する」「偶然の事象は自分の行動や努力でキャリア形成に役立てられる」「環境を変化させるなどして意図的に偶然の事象を引き寄せることもできる」というもので、意図せず歩んだ私のキャリアもこの理論に近いようです。

偶然がキャリアの8割を支配するならキャリアデザインなど無駄と思うかもしれませんが、誰かが努力を見ているかもしれません。学生の皆さん、卒業生の皆さんには、未来に向けて一つずつ力を積み上げ、将来を築いていてもらいたいと思います。私ももう少し頑張って、社会と関わっていかうと考えます。



〇退職

人	子ども学科	教授	山口 昌澄
	キャリア育成学科	教授	中畑 裕之
	子ども学科	准教授	寶來 敬章
事	キャリア育成学科	特任講師	海住 信行
	キャリア育成学科	特任講師	服部 優子

キャリア支援センター	キャリアサポーター	宮崎 信明
外国人留学生支援室		前田 恵里
ボランティア活動支援室		杉谷 哲也

〇異動

教務課から高田中高等学校事務部庶務課へ	藤善 真裕
---------------------	-------

公告

令和5年度における学校法人高田学苑の決算は次の通りですので、高田学苑寄附行為第42条の規定に基づき公告いたします。

学校法人 高田学苑
(単位:円)

貸借対照表 (令和6年3月31日)

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	(8,074,072,220)	(8,045,285,765)	(28,786,455)	固定負債	(267,134,399)	(266,357,065)	(777,334)
有形固定資産	(5,843,956,961)	(6,084,688,872)	(△240,731,911)	退職給与引当金	267,134,399	266,357,065	777,334
土地	1,025,122,922	1,025,122,922	0	流動負債	(422,380,665)	(464,146,769)	(△41,766,104)
建物	3,903,050,352	4,064,688,294	△161,637,942	未払金	64,146,705	89,930,891	△25,784,186
構築物	563,913,715	628,326,808	△64,413,093	前受金	267,645,000	286,040,000	△18,395,000
教育研究用機器備品	74,997,944	79,858,778	△4,860,834	預り金	26,375,811	26,001,633	374,178
管理用機器備品	10,952,923	11,395,538	△442,615	修学旅行費預り金	58,116,024	56,400,020	1,716,004
図書	228,348,427	232,161,996	△3,813,569	卒業諸費預り金	6,097,125	5,774,225	322,900
車輛	7,651,200	13,215,058	△5,563,858	負債の部合計	(689,515,064)	(730,503,834)	(△40,988,770)
学苑林	29,919,478	29,919,478	0	純資産の部			
特定資産	(2,175,949,330)	(1,908,101,236)	(267,848,094)	科目	本年度末	前年度末	増減
退職給与引当特定資産	268,490,000	263,490,000	5,000,000	基本金	(13,104,500,702)	(13,049,525,087)	(54,975,615)
施設設備拡充引当特定資産	1,907,459,330	1,644,611,236	262,848,094	第1号 基本金	12,932,500,702	12,877,525,087	54,975,615
その他の固定資産	(54,165,929)	(52,495,657)	(1,670,272)	第4号 基本金	172,000,000	172,000,000	0
借地権	2,257,500	2,257,500	0	繰越収支差額	(△5,217,014,807)	(△5,150,892,890)	(△66,121,917)
電話加入権	1,285,980	1,285,980	0	翌年度繰越収支差額	△5,217,014,807	△5,150,892,890	(△66,121,917)
施設利用権	71,190	142,380	△71,190	純資産の部合計	(7,887,485,895)	(7,898,632,197)	(△11,146,302)
ソフトウェア	21,415,020	26,869,810	△5,454,790	負債及び純資産の部合計	(8,577,000,959)	(8,629,136,031)	(△52,135,072)
有価証券	13,297,674	13,297,674	0				
差し入れ保証金	350,000	350,000	0				
長期前払金	15,488,565	8,292,313	7,196,252				
流動資産	(502,928,739)	(583,850,266)	(△80,921,527)				
現金預金	374,452,119	408,990,971	△34,538,852				
未収入金	60,940,360	73,633,999	△12,693,639				
前払金	3,243,020	91,212	3,151,808				
立替金	80,091	38,959,839	△38,879,748				
修学旅行費預り資産	58,116,024	56,400,020	1,716,004				
卒業諸費預り資産	6,097,125	5,774,225	322,900				
資産の部合計	(8,577,000,959)	(8,629,136,031)	(△52,135,072)				

令和5年度卒業生 就職先等一覧

子ども学科

◆私立保育園

アンシエ不動保育園、石樽保育園、いせの杜保育園、えがお志摩保育園、片田保育園、久保保育園、さつき保育園、志登茂保育園、しまの杜保育園、たいすい保育園、たいすい中央保育園、第三愛護園、第二長太の浦保育園、ちいさな保育園、津愛児園、つくし第二保育園、つばき保育園、つばき保育園、つまちなか保育園、豊野保育園、豊浜西保育所、なかよし保育所、ながさわ保育園、長太の浦保育園、なのはな保育園、にじのいるか保育園南葛西、ひかり保育園、久居保育園、日の本第二保育園、ひまわり保育園、ひよこ保育園、松阪清泉愛育園、松阪仏教愛護園、三重愛育保育園、三重保育院、みどり保育園、みのり保育園、みやま保育園、わかすぎ第2保育園、わかすぎ第3保育園

◆私立幼稚園

あおい幼稚園、桔梗が丘幼稚園、神宮五十鈴川幼稚園、鈴鹿幼稚園、第2すずかきおか幼稚園、高田幼稚園、富田文化幼稚園、ふたば幼稚園、みずきが丘道伯幼稚園

◆私立こども園

暁の星こども園、いつきのみやこども園、風の丘認定こども園、風の子認定こども園、亀山愛児園、かわしまこども園、くまだこども園、サン認定こども園、修道こども園、末広認定こども園、高岡ほうりん認定こども園、中島こども園、認定こども園杜の街ゆたか園、NOBENOこども園、藤認定こども園、藤水認定こども園、ばだいじIRORI園、みらいの森ゆたか園、めいりんこども園、ゆい保育園、ゆたか認定こども園、ルーテル二葉認定こども園

◆公立保育園

伊勢市立保育所さらら館、熊野市立金山保育所、鈴鹿市立河曲保育所、鈴鹿市立西条保育所、大紀町立いしきあおぞら保育園、大紀町立ななほ保育園、玉城町立外城田保育所、津市立相愛保育園、津市立安濃保育園、津市立川合保育園、津市立橋南

保育園、津市立雲出保育園、津市立ひとみね保育園、津市立北部保育園、東員町立みなみ保育園、松阪市立春日保育園、松阪市立西保育園、四日市市立日永中央保育園、度会町立棚橋保育所

◆公立保育園(臨時)

紀宝町立鶴殿保育所、鈴鹿市立玉垣保育所、鈴鹿市立牧田保育所、津市立千里保育園

◆公立幼稚園

菰野町立竹永幼稚園

◆公立こども園

伊勢市立しごうこども園、亀山市立関認定こども園アスレ

◆公立こども園(臨時)

菰野町立菰野こども園、津市立芸濃こども園

◆施設

いせ子どもの家、エスペランス桑名、エスペランス四日市、NPO法人 HA-HA-HA、こいしろの里、里山学院、児童養護施設ないろ、真盛学園、鈴鹿里山学院、鈴鹿和順学園、聖マツヤ子供の家、天理教三重互助園、名張養護学園、乳児院ましろ、三重済美学院、みどり自由学園

◆企業等

紀宝町職員(事務職)、とくりき耳鼻咽喉科医院、(株)戸田医科器械店、丸亀産業(株)、三重県国民健康保険団体連合会

◆進学

同朋大学

キャリア育成学科(オフィスワークコース)

◆鉱業・採石業・砂利採取業

(株)山本建材

◆建設業

中美建設(株)、松阪興産(株)

◆製造業

(株)スルガ、豊田合成日之出(株)、(株)ニシタニ、日産部品東海販売(株)、パイロットインキ(株)、(株)ヨシザワ

◆電気・ガス・熱供給・水道業

(株)ウインドテックエンジニアリング

◆情報通信業

(株)サイネックス、(株)ベオスアイティーホール

ディングス、(株)ミエデン

◆運輸業・郵便業

(株)日本陸送

◆卸売業・小売業

(株)ぎゅーとら、(株)テレポートモバイル、中西電機工業(株)、ネットヨタ三重(株)、三重いすゞ自動車(株)、三重ダイハツ販売(株)、三重トヨタ自動車(株)、三重トヨペット(株)、三重リコピー(株)、(株)ミツイバウマテリアル

◆金融業・保険業

(株)三十三銀行、JA鈴鹿、(株)百五銀行、(株)ヘルシーファミリー

◆不動産業・物品賃貸業

(株)賃貸の窓口、(株)トヨタレンタリース三重、三重交通コミュニティ(株)

◆学術研究・技術サービス

井田裕明税理士事務所、百五オフィスサービス(株)

◆医療・福祉

近鉄スマイルライフ(株)、齊木内科、高野尾クリニック、中部眼科、(医)同心会 遠山病院、はやし歯科医院

◆サービス業

(株)ワットコンサルティング

◆公務

亀山市職員、亀山市会計年度任用職員、三重県警察官B

キャリア育成学科(介護福祉コース)

◆老人福祉施設

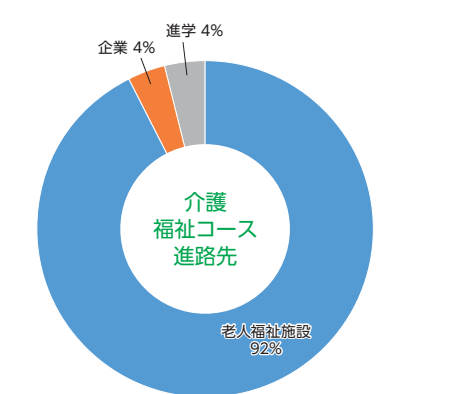
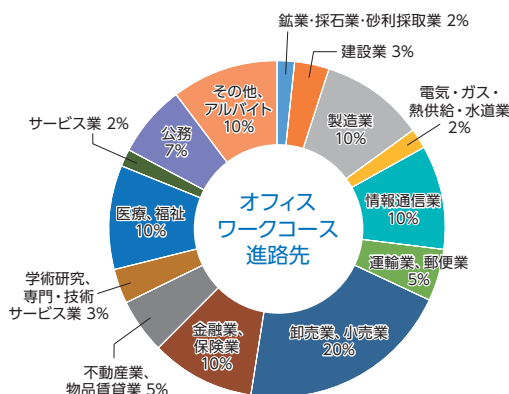
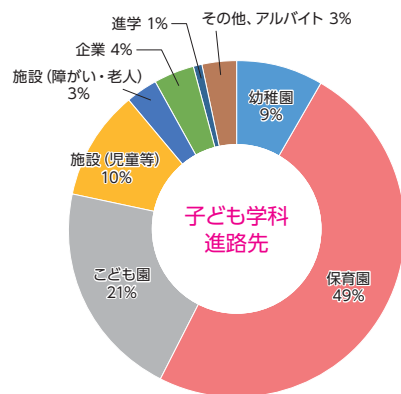
(社福)あけあい会、伊勢温泉観光(株)、(社福)ウェルハート厚生会、(社福)永甲会、(社福)風薫会、(医)佐藤病院、(医)思源会 岩崎病院、(社福)慈童会、(有)スイート、(社福)高田福祉事業協会、(社福)なでしこ苑、(医)白鳳会、(社福)白壽会 豊野みかんの里、八風の里、(医)緑の風

◆企業

(株)スルガ

◆進学

鈴鹿大学短期大学部



編集後記

皆様にご協力いただき、高田短期大学通信第59号を発行できることとなりました。お忙しい中にもかかわらず、原稿をご執筆いただいた皆様にご心よりお礼申し上げます。前号までと同様に、この通信には高田短期大学の魅力がたくさん掲載されています。そして、共感していただける方も多くおられるのではないかと思います。まだ掲載されていない魅力もたくさんあります。こうした魅力をより多くの方々にお届けできるよう、今後もよりよい紙面づくりを目指してまいります。

※表紙の写真は、令和5年度の子ども学科授業「子どもと表現(造形)」で、学生さんたちが自作の凧を使って寒風にめげず凧揚げをしている様子です。